

吉備国際大学研究紀要
 (人文・社会科学系)
 増刊号, 99-106, 2017

小学校教育課程教科「生活科」における対話的な学びに関する一考察

鳥居 恭治[※]・栗田 喜勝^{※※}

A study on the Interactive learning in Elementary school curriculum “Life Environment Studies”

Yasuharu TORII[※], Yoshikatsu KURITA^{※※}

Abstract

Along with the revision of the guidelines for teaching elementary school, interactive learning in the “Life Environment Studies” has become important. Therefore, in this research, we examined what kind of learning situation the teacher involved is effective for interactive learning with reference to practical examples in elementary school.

Specifically, the case was analyzed using the following four criteria, which are conditions for dialogue learning to be established: A - Activities that can raise children's wishes, B - Activity exchanges and communicating activities, C - Creation of evaluation criteria to understand children's activities, D - Supportive class making. As a result, a relation to be established was seen about the standard of A, B, C, but a clear relation was not seen about the D standard.

Key words : life environment studies, interactive learning, raise children's wishes, communicating activities, criteria of evaluation

キーワード : 生活科、対話的な学び、願いを高める、伝え合う活動、評価基準

1 はじめに

平成元年の学習指導要領の改訂において、小学校低学年に「生活科」が新設されて以来、教科「生活科」の学習指導要領についてはこれまでに2回の改訂が行われたが、平成29年3月には学習指導要領の3回目の改訂に向けて文部科学省から具体的な方向性が示された¹⁾。

これまでの現状としては、平成20年の第2回目の改訂では、気づきの質を高めることや幼児教育との連携

を図ることの充実を図ること、他教科等との連携を図ること、保護者、地域にいる人々との協力を得ることなどが示され、子どもたちの生活圏を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動や体験をする中で気づきを得て自立の基礎を養ってきた。このような状況の中で、筆者らは、子どもたちにどのように活動場面と出会わせ、どのような願いをもちせるのか、そして、その願いを達成するためにどのような活動内容を子どもたちとともにやっていくのか、また、その中で願いが

※ 岡山市教育研究研修センター
 〒704-8115 岡山市東区向州1-1
 Okayama Municipal Center for Educational Research & Teachers' Development
 1-1, Mukousu Higashi-ku Okayama-city, Okayama, Japan(704-8115)

※※ 吉備国際大学心理学部子ども発達教育学科
 〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8
 Department of Child Development and Education, School of Psychology, Kibi International University
 8, Iga-machi Takahashi-city, Okayama, Japan(716-8508)

どのように高まっていくのか、生活科における教育実践の有効化と深化を図るための研究に取り組み、実践を行ってきたが、近年では各小学校の教育現場においては、実践に基づく年間計画もできあがり、誰が担任教師となっても地域の自然や社会、地域の人々とかかわりながら一定の活動ができるようになってきている。

今回の改訂においては、これまでの取り組みを評価したうえで、今後、生活科の学習指導においてさらに取り組むべき課題について示されており、教育実践における研究課題として取り組む必要が生じている。

2 「生活科」学習指導要領改訂における課題

平成27年8月に報告された、中央教育審議会教育課程企画特別部会の「論点整理」の取りまとめ²⁾では、以下の4点が課題としてあげられている。

1つ目は、活動や体験を行うことで低学年らしい思考や認識を確かに育成し、次の活動へとつなげる学習活動を重視すること。

2つ目は、幼児教育において育成された資質・能力を存分に発揮し、各教科等で期待される資質・能力を育成する低学年教育として滑らかに連続発展させること。

3つ目は、幼児教育との連携や接続を意識したスタートカリキュラムが、生活科特有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取り組みとすること。

4つ目は、社会科や理科、総合的な学習の時間をはじめとする中学年の各教科への接続を明確化すること。

以上のような論点を踏まえ、具体的な改善事項としては、学習・指導の充実や教育環境の充実の中で「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の実現に向けた取り組みの必要性が提言されている。

3 「対話的な学び」の視点

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会

の報告³⁾では、「主体的・対話的で深い」学びの実現のための視点の一つである「対話的な学び」の視点について、次のような趣旨が述べられている。

生活科では身の回りの様々な人々とかかわりながら活動に取り組むことや、伝え合ったり交流したりすることが大切である。伝え合い交流する中で、一人一人の発見が共有され、そのことをきっかけとして新たな気づきが生まれ、関係が明らかになったりすることが考えられる。他者との協働や伝え合い交流する活動は、一人一人の子どもの学びを質的に高めることにもつながる。

また、生活科では、対象に直接働きかけるだけでなく、それらの対象が子供に働き返してくるという双方向性のある活動が行われ、対象と直接関わり、対象とのやりとりをする中で、感じ、考え、気付くなどして「対話的な学び」が豊かに展開されることが求められる。

そこで、本稿では、生活科の学習における子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の取り組み実践事例を通じて期待される成果と課題について考察を行う。

具体的な研究方法としては、生活科の自分の願いを実現する活動において、願いを高めたり、活動を広げたり深めたりする時のきっかけとなる、活動の交流、気付きの交流などを「対話的な学び」の観点から見直し、どのような教師の手立てが対話的な学びに有効かについて、第2学年「つくって遊ぼう」の単元における実践例を通じて考察を行うが、対話的な学びが成立する条件については以下のような視点を判断基準とした。

- A 願いを高める活動ができています。
- B 活動の交流や伝え合う活動ができています。
- C 児童の活動を見取る評価基準ができています。
- D 支持的なクラス作りができています。

以下の考察においては、有効と考えられる手立ての部分にはA下線のように表示した。

なお、実践例については、平成26年度の高梁市立津川小学校での実践⁴⁾を参考とした。

4 実践事例による考察

第2学年 生活科学習指導案

平成26年11月4日(火) 5校時 指導者 山崎 賢治

1 単元名 「つくってあそぼう」

2 単元の目標

- 身近にある材料を利用して動くおもちゃを作り、友達と一緒に楽しく遊ぼうとしている。
- 身近にある材料を利用して動くおもちゃを作り、楽しく遊ぶことができる。
- 身近にある材料をうまく工夫すればおもちゃが動くことや、遊び方を工夫すればより楽しく遊べることに気付いている。

3 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
①身近にある自然や物などを利用して、遊べるおもちゃを作ろうとしている。 ②みんなで遊びを楽しもうとしている。 ③友達や招待した人と進んで関わろうとしている。	①身近な物で遊べるおもちゃを作るために、考えたり工夫したりしている。 ②友達や招待した人と楽しく遊ぶことができるように、遊びの場やルール、遊び方などを工夫したり考えたりしている。 ③楽しかったことや工夫したことなど、自分なりの方法で表現している。	①身近な自然や物を使っておもちゃが作れることや、それらで楽しく遊べることに気付いている。 ②自分や友達のおもちゃの良さに気付いている。 ③協力したり工夫したりすると遊びや生活がより楽しくなることに気付いている。

4 指導上の立場

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領生活の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」を踏まえて設定したものである。身近な自然や身近にある物を用いた遊びを工夫することで、その面白さや自然の不思議さなど多くの気付きが生まれる。また、友達とのかかわり合いを通して、約束やルールを守って遊ぶことの楽しさ、友だちのよさや自分との違いに気付くとともに、友達とのかかわりを深めたり、広げたりすることができると思う。

津川小学校周辺は自然に恵まれていて、児童は自然に触れることができる環境にある。しかし、家が離れていて近所に友達が少ないため集まって遊びにくい、遊びに行ってもカードやポータブルのゲームなどをすることが多いなど、自然の中で友達と関わり合いながら集団で遊ぶことが難しい。

そこで、本単元では、自分たちの身の回りにあるものを利用しておもちゃを作り、友達と一緒に遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫することの面白さに気付くことをねらいとする。また、友達のよさや自分との違いに気付いたり、相手の考えを尊重したりする態度を育てていきたいと考える。

(2) 児童観

生活科に関しては、アンケートの結果ほとんどの児童が授業が好きだと答えている。今まで行ってきた学校探検や町探検、野菜作りではどの児童も進んで意見を言ったり活動を楽しんだりしている。また、どの児童も作ることは大好きであり、何かを作り出そうとする意欲は高い。しかし、作ったもので遊びを楽しむことばかりに意識が向いて、よりよいものを工夫して作ろうとする態度にやや欠けている児童もいる。

そこで、本単元「つくってあそぼう」を通して、身近にある物から自分で作りたいおもちゃを考えさせ、よりよいおもちゃになるように工夫して作る活動を通して、その面白さを実感させたい。また、友達とともに活動する楽しさや互いの作った物を認め合う経験、他学年などを招待し一緒に遊ぶ経験を通して自分や友達のよさに気付かせたい。

この単元では、はさみやカッターナイフなどを使うので、安全には十分配慮し、使い方をきちんと指示しておきたい。

(3) 本時の学習について

前時までには、自分で作りたいおもちゃを完成させている。A本時では友達の作ったおもちゃで遊んだり友達と競争したりする活動を取り入れる。その後、B友達の作ったおもちゃのよいところを発表し合う。そのことで、自分のおもちゃをよりよくするにはどうしたらよいかに目を向けさせ、工夫をしていくための参考にさせたい。B第二次で他の学年を招待し楽しんでもらうために、気付いたことは積極的に友達に伝え協力して作り上げていくことにも気付かせたい。

(4) 津川小学校のテーマ「自然に親しみ生き生きと探求する子どもの育成」との関わり

○児童の興味・関心を引き出す工夫について

どの児童もおもちゃで遊ぶことは好きである。あらかじめいくつかの動くおもちゃを準備しておき、A導入で実際に遊ぶ活動を取り入れることで、身近にある物から楽しいおもちゃが作れることが分かり、自分も作ってみたいという関心がより高まると思われる。また、A・B「おもちゃひろば」を開き他の学年を招待することを知ることで、最後まで見通しをもって活動に取り組めると考える。

○個に応じた適切な支援について

本学級の児童は、学習の中で次のような課題が挙げられる。

ア 積極的に発表する児童はいるが、分かっているにもかかわらず発表しない児童もいる。

イ 少し難しいとあまり考えようとせず、他人任せにする児童がいる。

C予想される児童の姿から具体的な評価基準（A基準、B基準、C基準）を考えておき、いつでも対応できるようにしておきたい。Cアに対しては、自信のない児童には、見つけたよいところを賞賛し発表を促したい。C発表の意欲の低い児童には、教師の意図的な指名を行うことで多くの意見を引き出したい。また、みんなで協力して「おもちゃひろば」を開くという気持ちを高めることができるように声かけを続け積極的な発表を促したい。Cイに対しては、自分が何をしたいのかをワークシート等にかかせることで目的意識をしっかりと持たせたり、C自ら進んで工夫が見られた時に賞賛したりするなどの支援をしていきたい。

5 指導と評価の計画 (全16時間)

次	主な学習活動	教師の指導・支援 (○) と評価規準 (◎)
第一次 第1・2時	○遊べるおもちゃを見て、遊んだ経験を想起したり、用意したおもちゃで遊んだりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">おもちゃはどんなふうにごくのか考えて見よう。</div>	○児童の意欲を高めるために、手作りおもちゃを多数用意し、遊ぶ場を設定する。
	○どんな仕組みで遊べるのか考え、話し合う。 ○自分でもおもちゃを作ってみたいという意欲を高めるために、おもちゃ作りについて話し合う。	◎遊べるおもちゃに関心を持ち、自分でもおもちゃを作ろうとしている。【関】 ◎おもちゃの仕組みについて考えている。【思】 ◎身近な物を使ったおもちゃで楽しく遊べることに気付いている。【気】
第一次 第3時	○前時で遊んだおもちゃや教科書などをもとに、自分が作りたいおもちゃを決める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">作りたいおもちゃをきめよう。</div>	○教科書だけでなく、おもちゃの作り方に関する図書をそろえておく。
	○おもちゃを作るために必要な物や手順を調べたり考えたりする。 ○おもちゃを作るために必要な道具や材料を準備する。	○安全におもちゃを作るために道具や材料の扱い方を説明する。 ◎自分が作りたいおもちゃを決め、準備をしようとしている。【関】 ◎おもちゃの作り方や必要な物を調べたり考えたりしている。【思】 ◎おもちゃを作るために必要な物や準備の仕方、扱い方に気付いている。【気】
第一次 第4～7時	○道具や材料の片付け方、おもちゃ作りの作業での注意を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">おもちゃを作ってあそんでみよう。</div>	○作るときや片付けの約束を説明する。
	○手順を考えて、作りたいおもちゃを各自で作る。 ○色を塗ったり、飾りをつけたりして、おもちゃを完成させる。 ○自分が作ったおもちゃで遊んでみる。	○活動が滞っている児童には、困っているポイントを説明させ、調べたことを振り返らせたりアドバイスをしたりする。 ◎自分の調べたことをもとに、作りたいおもちゃを作ろうとしている。【関】 ◎仕組みや手順を考えて、おもちゃを作っている。【思】 ◎おもちゃの仕組みや身近な物を使って、自分でもおもちゃが作れることに気付いている。【気】
第一次 第8～11時	○自分や友達が作ったおもちゃで遊んだり、友達と競争したり比べたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">みんなのおもちゃのよいところを見つけ、おもちゃをよりよくしよう。</div>	○児童がおもちゃをよりよくするための方法を考え出せるように、見つけたよさを発表し合う場を設定する。
	○おもちゃをよりよくするためには、どうしたらいいのかを考える。(動き、丈夫さ、見た目など) ○おもちゃをよりよくするために、友達と協力して手直しをする。	◎自分や友達が作ったおもちゃで楽しく遊び、よりよくしようとしている。【関】 ◎おもちゃをよりよくするための工夫を考えたり、作業したりしている。【思】 ◎自分や友達のおもちゃのよさに気付いている。【気】 (本時 8時間目)

第二次第1〜4時	○「おもちゃひろば」について話し合う。	
	ようち園や1年生、ひまわり学きゅうのともだちをしょうたいして、「おもちゃひろば」をたのしんでもらおう。	○自分達だけが楽しむのではなく、招待した友達に楽しんでもらえるよう意識をさせる。 ◎招待した人に楽しんでもらえるような「おもちゃひろば」を作ろうとしている。【関】 ◎招待した人と楽しく遊ぶことができるように、遊びの場やルール、遊び方などを工夫したり考えたりしている。【思】 ◎身近にある物を使って、友達と力を合わせれば、みんなで楽しく遊ぶことができることに気付いている。【気】

6 本時案（第一次第8時）

目 標	自分や友達が作ったおもちゃを動かして遊び、友達と一緒に遊んだり競争したりして、自分や友達のおもちゃのよさに気付き、発表する。		
学習活動	教師の発問と児童の意識の流れ	教師の指導・支援○と評価◎	準備物
1 本時のめあてを確認する。	○今日のめあてを確認するよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> みんなのおもちゃのよいところを見つけよう。 </div>	○前時の活動を振り返り、本時に行うこと の意識付けをする。 ○よいところを見つけるための視点をあらかじめ確認しておく。（動き、丈夫さ、見た目など）	
2 自分や友達 が作った おもちゃで 遊び、よさ を見つける。	○自分が作ったおもちゃや友達の作ったおもちゃで遊びましょう。 ・作ったおもちゃを競争させようよ。 ・それ、おもしろそうだね。 ・どうしたら○○さんの車のよ うに速くなるんだろ。 ○おもちゃで遊びながら、気付いたよいところを付箋に書きま しょう。 ・○○さんの車は速く走るよ。 ・△△さんのおもちゃは動きが おもしろいね。	○グループごとに時間を決めて、遊び場所 を回ることや遊び方などの注意点を伝える。 ○ B 気付いたよさは後で伝えられるよう付 箋紙にメモし、各コーナーごとに用意し た写真に貼っておくように伝える。 ○なるべく多くのおもちゃで遊び、身近な 物で作ったおもちゃで遊ぶ面白さを見出 せるような場を設定する。 ○ B つぶやきなどから友達のおもちゃのよ いところに気付いている児童を賞賛し、 後で全体に広めるよう声かけをする。	付箋 各自が作っ たおもちゃ の写真 セロテープ など修理が できる道具
3 見付けた よさを発表 し合う。	○友達のおもちゃで遊んでみて、 どんなよいところに気付いたか な。 ・○○さんの車は、ぼくのより も速かったよ。帆が大きかった からかな。 ・□□さんの矢が一番まっすぐ 飛んだよ。	○ B 児童がおもちゃをよりよくするための 方法を考え出せるように、見付けたよさ を発表し合う場を設定する。 ○ B 動きのよさに気付いた意見を賞賛し次 時によりよくしていくための視点を持た せる。 ◎自分や友達のおもちゃのよさに気付き発 表している。（気付き）	

4 本時の振り返りをする。	○今日の振り返りをワークシートに書いてみよう。 ・自分の車も〇〇さんのように走るようにしたい。 ・〇〇さんはいっぱいよいところに気付いていてすごかったよ。	○ <u>B楽しかったことや自分のおもちゃに取り入れたいことなどを発表させる。</u> ○考えが思いつかない児童には、誰のが良かったかや自分はどうしたいなど視点を絞って考えさせる。	ワークシート
5 次時の活動について考える。	○次の時間はどんなことができるかな。 ・もっと速く走るように直していきたい。 ・〇〇さんの車みたいに速く走るよう帆の大きさを工夫してみよう。	○児童が次時の活動への意欲を高めたり、次時に向けての準備をしたりできるように、次時に何をしたいか問いかける。	

7 ルーブリック評価基準（第1次8～11時を抜粋） C

指導計画	作ったおもちゃを工夫してよりよくする。 ○みんなのおもちゃのよいところを見つけ、おもちゃをよりよくしよう。
関心・意欲・態度	自分や友達が作ったおもちゃで楽しく遊び、よりよくしようとしている。
A基準	友達のおもちゃや本などを参考に、おもちゃをよりよくしようとしている。 ・〇〇さんの作り方は、とてもいいな。自分のおもちゃにも取り入れてみよう。
B基準	おもちゃをよくしようとしている。 ・〇〇さんが教えてくれたように直してみよう。 ・うまくできないから、〇〇さんに手伝ってもらおう。
C基準	おもちゃをよくしようとしなない。 ・直さなくていいや。 ・動きがおかしいけどまあいいや。
思考・表現	おもちゃをよりよくするための工夫を考えたり、作業したりしている。
A基準	おもちゃをよりよくするために、よいおもちゃと比べたり本などで調べたりしながら考えたり作業したりしている。 ・〇〇さんの車は速いな。違いを比べてみよう。 ・こうやったらうまく直しができるぞ。
B基準	おもちゃをよりよくするための工夫を考えたり、作業したりしている。 ・どうすれば速くなるのかな。こうしてみようか。
C基準	おもちゃをよりよくするための工夫を考えたり、作業したりしていない。 ・もう、直すのめんどうだ。 ・考えなくていいや。
気付き	自分や友達のおもちゃの良さに気付いている。
A基準	自分や友達のおもちゃの良さや違いに気付いている。 ・この車はまっすぐにはしるな。自分とどう違うのだろう。 ・このおもちゃは面白い動きをするな。こうなっているからだろうな。
B基準	自分や友達のおもちゃの良いところに気付いている。 ・〇〇さんの車は、速く走るね。 ・このアーチェリーはまっすぐに飛ばなあ。 ・△△さんのおもちゃは丈夫にできているなあ。
C基準	自分や友達のおもちゃの良いところに気付いていない。 ・いいところなんてないよ。 ・全然だめだなあ。

5 実践成果の考察と課題

1) Aについて

本時の導入時の子どもの様子を見ると、自分の作ったおもちゃで遊んでいる状態だったので、「友達と一緒に遊んでみよう。」「友達のおもちゃのよいところを見つけよう。」「おもちゃをよりよくしよう」という思いは持っていた。これは、本時までの活動ができていると推測される。

そこで、「友達と一緒に遊んでみんなのおもちゃのよいところを見つけよう」というめあては、有効であったと思われる。

課題としては、前時までの活動での満足度が個人によって違っているために、まだ自分のおもちゃを直したり、それで遊ぶという姿も見られたので、友達もおもちゃに目を向ける手立てが必要な子どもへの声かけが課題となる。

2) Bについて

単元を通しての手立てでは、友達の作ったおもちゃのよいところを紹介し合う、他の学年を招待してのしんでもらう、そのために友達と協力することなど、子どもが、必要感をもって活動の交流や伝え合う活動ができる手立てとなっていたと考えられる。

本時では、子ども同士の話し合いを促す支援が直接的なもの子どもの様子を称揚する支援が5つ記されている。

授業では、全員発表もすることができていたので、これらの支援が有効だったと考えられる。

課題としては、教師の支援を少なくとも子どもどうして活動や発言の交流ができる支援を探していくことと考える。

3) Cについて

8頁のルーブリック評価基準で、教師の支援がすぐに必要なC基準、目標が達成できていると考えるB基準、目標を十分に達成できていると想定されるA基準

を具体的な姿として作っている。

これらの姿をあらかじめ授業者が想定しておくことで、活動に参加していない子ども（C評価）には、すぐに支援ができ、評価と指導の一体化ができていると言える。

また、A基準を想定することで、子どもの活動をゆとりを持って見届けたり、称揚したりすることができていた。

4) Dについて

支持的なクラス作りについての直接的な手立ては、本教案には記載されていない。

しかし、支持的なクラスは4月からすべての教科や道徳、特別活動などのすべての時間において子どもと教師で作りに上げてきていると感じられた。これは、学級作りの基本であり、これができなければ対話的な学びではなく、教師の一方的な教授になってしまった結果と考えられる。

支持的なクラス作りは、学年のそれぞれの時期に応じた手立てが必要で、これでいいという限界はないと思われる。そのクラスの弱点を教師が見つけ、手立てを変えながら行っていくことが課題であると思われる。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省 2017 小学校学習指導要領第2章第5節「生活」 pp.94-97.
- 2) 文部科学省 2016 中央教育審議会「生活科・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（生活）」 p2.
- 3) 文部科学省 2016 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（報告） p13.
- 4) 高梁市立津川小学校 2014 公開授業研修会資料 pp.1-5.